



ET研究所ニュース 令和元年12月号

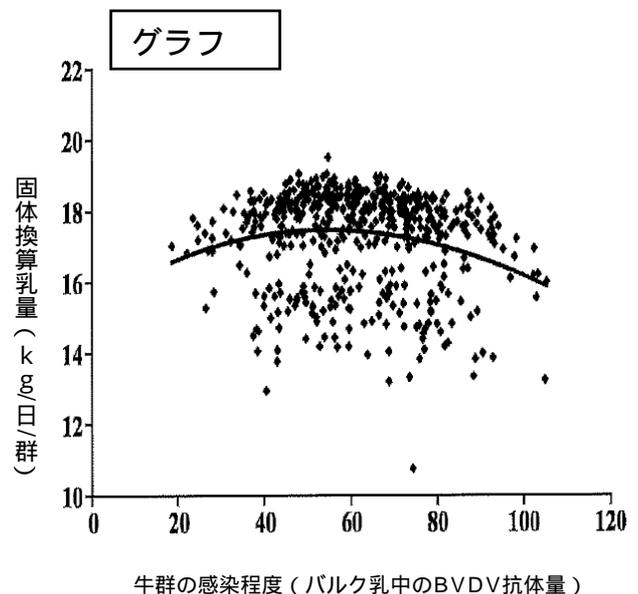
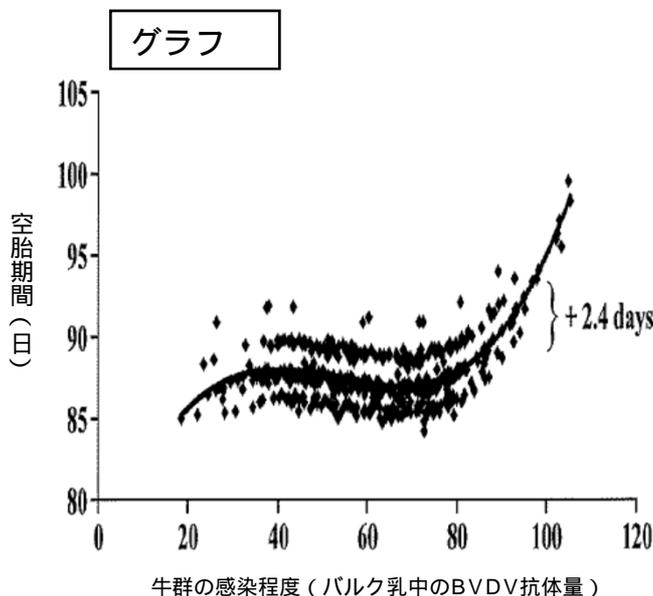
牛にはさまざまな疾病がありますが、その中には繁殖性に影響を与える感染症もあります。今回紹介するのは、牛ウイルス性下痢粘膜病（Bovine Viral Diarrhea-Mucosal Disease：BVD-MD）の原因であるBVDウイルスの感染が農場に与える経済的な損失について調査・考察したNew Zealandの論文です。

BVDウイルス（BVDV）が感染した乳牛群における経済的な影響

材料・方法

供試牛群：ランダムに選ばれた518の搾乳牛群
バルク乳中のBVDV抗体量を測定し、搾乳牛群の感染程度を推定。
基準抗体量の81%以上を重度感染群、80%以下を軽度感染群とした。

結果



【空胎期間の延長：グラフ】
重度感染群は軽度感染群に比べ、**空胎期間が約2.4日延長**

【固体換算乳量の減少：グラフ】
重度感染群は軽度感染群に比べ、**固体換算乳量が約0.99kg/日/群減少**

まとめ

本研究では、BVDVによる農場の汚染が、繁殖成績だけでなく乳量の減少という直接的な経済損失につながることを示しています。また、他にも「受胎までの授精回数の増加」「流産率の上昇」も報告しています。それらを総合して、金額としては牛1頭あたり年間87NZドル（2007年レートで**約7,500円!**）の損失が発生している、としています。1,000頭の搾乳牛がいれば...かなりの損ですね。

BVDVは独特な感染様式（ここで述べるにはスペースが足りない...）でやっかいなウイルスですが、感染予防やコントロールに大変有効な生・不活化ワクチンがあります。生ワクチンは妊娠期の接種には注意が必要です。お近くの獣医さんへ相談してみてください。

BVD-MDをはじめさまざまな疾病を予防することで牛側のコンディションを整え、**受胎率UP** を目指すのもひとつの近道かもしれませんね。

出典：Heuer C, et al. "Economic Effects of Exposure to Bovine Viral Diarrhea Virus on Dairy Herds in New Zealand." (Journal of Dairy Science Vol. 90 No. 12, 2007)

文責：大野(徹)